



## Q176. これで終わりなの？



### A. 終わり、は次へのスタートです。

長々と書き続けてきたものも、これを以ってひと区切りとさせていただきます。  
ここまで書いてこれたのは、読んでくださっている人がいてくれたからです。  
心より御礼申し上げます。

さて、さまざまなことをいろいろな視点から書いてきましたが、全話を通してお気づきになられた  
点はあったでしょうか。

実は、このコラムは、知らないことが前提、で書いてきたのです。

私自身が、知りたい、ということ掘り下げてきました。

残念なことに、[児童発達支援](#)や[放課後等デイサービスの職員](#)には国家資格というものがあり  
ません。

基礎の資格として、保育士や教諭、社会福祉士や[PT・OT・ST](#)、心理士などがありますが、児  
童の発達を支援する専門職、としての国家資格はないのです。

いま現在、これほどの利用者が存在し、必要とし、利用しているのに、です。

乳幼児期の子どもの発達の知識や経験だけでは、小学校高学年や中学生・高校生の、子どもと  
も言えない時期には、対応することが難しいところがあります。

かといって、大人として扱うには、まだまだ適当ではない、という微妙さです。

その微妙な、[少年期から思春期を経て青年期](#)に移っていく大切な時期に関わる専門職として必  
要であろうと思われる知識を、現在の状況に合わせて書き綴ってきました。

書き始めたのは、[規制が緩和](#)され事業所が爆発的に増えたころです。

いまはそんな事業所も少ないと思いますが ” 誰でもできる仕事です / 無資格でもOK ” と実際  
に求人サイトに書かれていたのですよ。

そして、そんな認識が一般的で、そこに説得力があってしまった世論だったからこそ、このコラム  
が成立していたのです。

このコラムを終結させて望むことは、この書き綴ってきたものが「この時代にしか書けなかった  
コラム」になることです。

「なぜこんなにもクドクドしいのだろう」「当然のことばかりだな」「知ってるよ」

これを読んだ人が、自然にそんなふう思ってくれることを願っているのです。

子どもたちにとって、この世界は解らないことだらけです。

「尊厳が保持される」「安心できる人がいる」「安心できる」そんな場所が[放課後等デイサービス](#)や[児童発達支援](#)です。

特性や障がいのあるなしに関わらず、子どもに関わる全ての人は専門職としての矜持を持ってほしいと願っています。

そして欲張ったことを言えば、子どもも大人も、特性や障がい、老若男女も、国籍や肌の色も分け隔てがなくなってほしい、と願っています。

数千年前のインドで「全ての人は皆平等である」と喝破した人がいました。

[マジョリティ](#)や[マイノリティ](#)、バイアスといったものが、なくなっている未来がすぐそこにありますように。

## [《MENU》](#)

[《カミングアウトとアウティングというのは？》](#)

[放課後等デイサービスって、そもそもどんなサービス？》](#)

放課後等デイサービス支援事業  
Support Project of  
Day-service for After-school  
At Kyoto

2024-03-25 掲載